

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	学校教育課	主管課長名	栗林 浩
2-1	施策名	学校教育の充実	関係課	教育指導課、生涯学習課、給食センター、幼稚園		

1. 施策の目的と成果把握

施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
				見込値	実績値	見込値	実績値	見込値	実績値
園児 児童、生徒(幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校の児童生徒)	①児童数(小学生・義務教育学校前期生)	人	見込値	2,002	1,977	1,908	1,782	1,718	
				実績値	1,998				
	②生徒数(中学生・義務教育学校後期生)	人	見込値		1,143	1,087	2,995	1,039	1,042
				実績値	1,133				
	③幼稚園児数	人	見込値		51	36	20	20	20
				実績値	52				
施策の意図	成果指標名	単位	区分		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
学力・心・体の調和の取れた人材が育まれている。	①学校が楽しいと思う児童生徒の割合	%	目標値	小:95.0% 中:86.0%	小:96.0% 中:88.0%	小:96.0% 中:88.0%	小:97.0% 中:90.0%	小:97.0% 中:90.0%	
				実績値	小:99.0% 中:84.8%				
	②学力診断テスト結果(県平均正答率との比較)	%	目標値		小:+13.0% 中:+9.0%	小:+14.0% 中:+9.0%	小:+14.0% 中:+9.0%	小:+15.0% 中:+10.0%	小:+15.0% 中:+10.0%
				実績値	小:+14.7% 中:+1.9%				
	③体力テスト結果(県平均との比較)	%	目標値		小:+9.0% 中:+6.0%	小:+9.0% 中:+7.0%	小:+9.0% 中:+7.0%	小:+10.0% 中:+8.0%	小:+10.0% 中:+8.0%
				実績値	小:+11.3% 中:+5.2%				
	④適正規模を維持できていない学校数	校	目標値		9	8	8	6	6
				実績値	9	8			
					目標値				
				実績値					
成果指標設定の考え方	○学力診断テストの結果により「学力」を、体力テストの結果により「体」を、学校が楽しいと思うことは「心」をそれぞれ判断し、「学力・体力・心」の調和の取れた人材が育まれているかどうか判断する。								
成果指標の把握方法と算定式等	①学校が楽しいと思う児童生徒の割合は、学校評価アンケートより求める。②学力診断テスト結果(県平均正答率との比較)は、県学力診断のためのテスト結果より求める。③体力テスト結果(県平均との比較)は、体力・運動能力調査結果より求める。④適正規模を維持できていない学校数は、1学年1クラスしかない学校数。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がすべて向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 向上した成果が多かった	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 低下した成果が多かった	<input type="checkbox"/> 成果がすべて低下した	
背景・要因	①学校が楽しいと思う児童生徒の割合は小学校で向上(H26~H29:89.5、90.4、90.4、99.0)、中学校で若干低下(H26~H29:87.1、87.0、83.4、84.8)している。 ②学力診断テスト結果は、小学校で向上(+6.4、+13.5、+13.4、+14.7)、中学校で低下(+6.6、+5.5、+3.6、+1.9)している。 ①②について、小学校については、目ごころからの指導により、全体的に少しずつ向上している。中学校については、一部の学校において、低下要因があったため、その学校だけ結果が悪い。そこを除けば、低下はない。4月から、学校の状況が変わったので、改善されると見込んでいる。 ③体力テスト結果は、小学校で向上(+5.4、+8.2、+10.5、+11.3)、中学校で横ばい(+7.9、+5.5、+5.1、+5.2)である。要因は小学校において、休みの時間に、遊びを通じて体力がつくような工夫があるため、体力が上がっているのではない。 ④適正規模を維持できていない学校数は、平成30年から真壁小・紫尾小・桃山中が統合して桃山学園が開校し、適正規模でなかった紫尾小が廃校になったため1校減となる。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 目標値を上回ったものが多かった	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 目標値を下回ったものが多かった	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①学校が楽しいと思う児童生徒の割合は小学校で目標値95.0%に対し99.0%で上回り、中学校は目標値86.0%に対し84.8%で若干下回った。 ②学力診断テスト結果は、小学校で目標値+13.0%に対し+14.7%で上回り、中学校は目標値+9.0%に対し、+1.9%で、大きく下回っている。 ③体力テスト結果は、小学校で目標値+9.0%に対し+11.3%で上回り、中学校で目標値+6.0%に対し+5.2%で若干下回っている。 ④適正規模を維持できていない学校数は、目標値どおりとなる。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
○H29年度は、教育体制及び環境の充実に、重点において事業を進めてきた。貢献度の高かった事業は下記のとおりである。 ・「桃山学園建設事業」「桃山中学校区統合準備委員会運営事業」は、統合を進めてきた桃山学園の前期課程の校舎の建設と、統合に向けて、教育目標などの様々な取り決めを行った準備委員会の運営事業である。 ・「少人数教育充実プラン推進事業」は、児童生徒の学力低下や不登校、暴力行為の急増問題などの課題を適切に対処するため、児童生徒一人一人の個に応じた指導の一層の充実を図り、基礎学力の向上を目指す事業である。 ・「適応指導教室」は、不登校児童生徒を対象に、学校とは異なる場で人間的なふれあいを基盤とした小集団指導を通して集団生活への適応(自立性・社会的適応力・自立心の伸長)を促進させ学校へ復帰できるような援助を行う事業である。 ・「ICT技術を活用した英会話交流事業」は、29年度から開始のフィリピン国パコール市バヤナン小学校と若潮小学校をスカイプ等で繋ぎ、英会話交流を行う事業である。	○学校アンケート及び学力診断の結果では、特に生徒(中学)における低下傾向である。要因はあるが、4月からの環境の変化が、改善に向かうと見込んでいるが、教育委員会・教育指導課及び各学校と連携を深め、改善策を早急にとっていく。 ○適正規模の解消においては、各中学校において、適正規模検討委員会を設置し、統合に向けての検討を重ねている。 ○4月開校の桃山学園の通学路における危険個所の解消に向け、道路整備・拡幅を行っていく。大阪の地震により、プールの壁等の耐震性を検証し、早急に改善策を取っていく必要がある。